

令和4年度（2022年度）

豊中市キャラクター マチカネくん



小学生すくすくテスト（第5・6学年）豊中市の結果概要

今年4月18日から4月26日にかけて実施された小学生すくすくテストについて、豊中市の児童のみなさんの調査結果の概要がまとまりましたので、お知らせいたします。

令和4年（2022年）11月 豊中市教育委員会

●目的

子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

●対象学年・参加児童数

第5学年：豊中市 3,744人 大阪府 67,425人

第6学年：豊中市 3,746人 大阪府 68,333人

●実施内容

第5学年：国語・算数・理科・わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート

第6学年：わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート

●各教科・わくわく問題（教科横断型問題）の出題内容及びアンケート内容について

国語：言語能力・読解力の基礎となる、基礎的な言葉等の理解を問う問題

文章に書かれている意味を正確に捉える力（リーディングスキル）をはかる問題

算数：関数・数と計算・図形に関する基礎的な知識技能、数学的な表現や意味理解、日常の事象を数学的に処理する技能を問う問題

理科：理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことや、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を問う問題

わくわく問題（教科横断型問題）

教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題（SDGs、プログラミング的思考）等をテーマにした問題

文章やグラフ、リーフレット等の様々な資料を題材としている。

問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題

アンケート

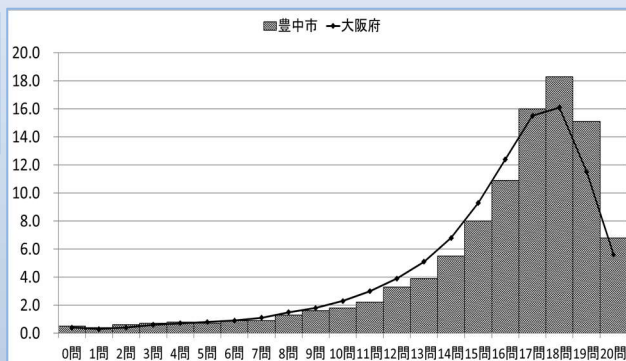
非認知能力である「未来に向かう力」と「好奇心」の一人ひとりの状況がわかる様々な問い方に基づく項目等



第5学年 各教科（国語・算数・理科）

第5学年 国語

※横軸は児童の正答数、縦軸は児童の割合を示しています。



分類	区分	平均正答率（％）		
		大阪府	豊中市	対府
学習指導要領の領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	80.6	81.9	↑
	(2) 情報の扱い方に関する事項	84.5	85.6	↑
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	40.6	47.9	↑
評価の観点	書くこと	73.8	75.0	↑
	知識・技能	76.8	78.7	↑
	思考・判断・表現	73.8	75.0	↑
問題形式	選択式	77.2	79.2	↑
	短答式	76.4	78.2	↑

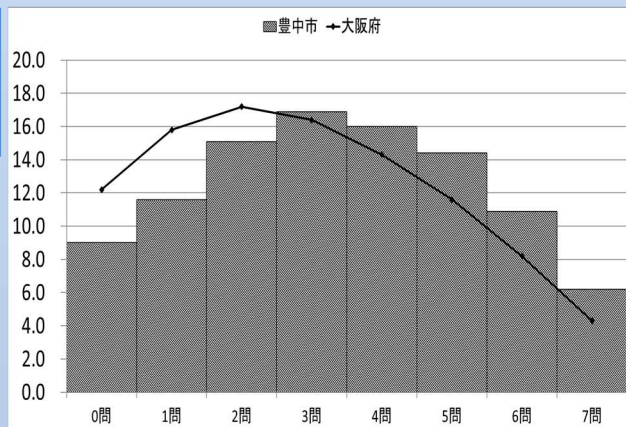
●どの分類においても大阪府の平均正答率（以下、正答率と表記）を上回っています。

●文中の助詞を正しく使う問題（問2（2））、文を正しく理解し指示語の指示内容を捉える問題（問7）等については、正答率が高くなっています。

●文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分の正しく書く問題（問3（2））やことわざの意味を正しく理解する問題（問5（1））では、正答率が低くなっています。

第5学年 算数

※横軸は児童の正答数、縦軸は児童の割合を示しています。

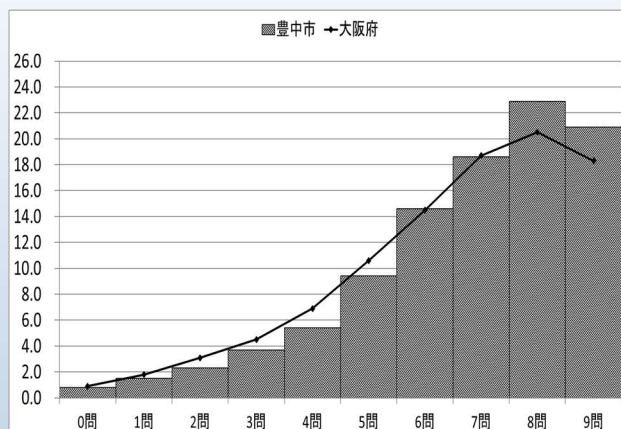


分類	区分	平均正答率 (%)		
		大阪府	豊中市	対府
学習指導要領の領域	数と計算	38.7	44.5	↑
	図形	37.3	42.1	↑
	測定/変化と関係	46.2	51.9	↑
	データの活用	43.4	55.1	↑
評価の観点	知識・技能	42.0	48.7	↑
	思考・判断・表現	29.8	32.7	↑
問題形式	選択式	43.4	55.1	↑
	短答式	47.7	54.2	↑
	記述式	29.8	32.7	↑

- どの分類においても大阪府の正答率を上回っていますが、大阪府・豊中市ともに全体を通して正答率が低い結果となっています。
- プログラムそれぞれの時間に着目して所要時間を計算し、必要な時刻を求める問題（問1（2））において、正答率が高くなっています。
- 示された長さについて平行四辺形の特徴を使って求め方を説明する問題（問1（4））や、面積が一番広くなるのはブロックを縦と横に何個並べたときかを考えその理由を言葉や式を用いて説明する問題（問2（3））において、正答率が低くなっています。

第5学年 理科

※横軸は児童の正答数、縦軸は児童の割合を示しています。

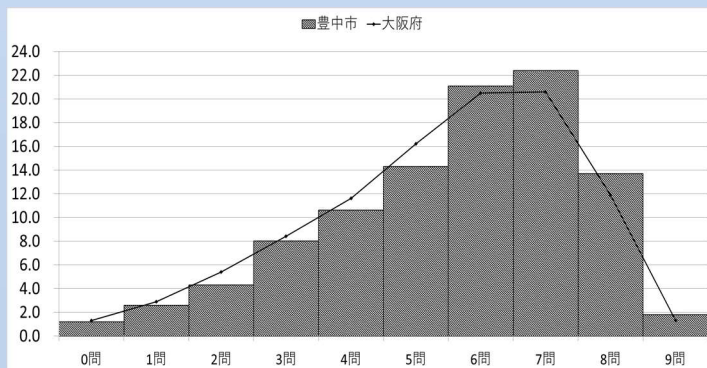


分類	区分	平均正答率 (%)		
		大阪府	豊中市	対府
学習指導要領の領域	エネルギー	70.2	72.3	↑
	地球	73.8	77.0	↑
評価の観点	知識・技能	70.3	72.9	↑
	思考・判断・表現	77.3	79.3	↑
問題形式	選択式	73.3	74.9	↑
	短答式	66.4	70.3	↑
	記述式	78.6	82.0	↑

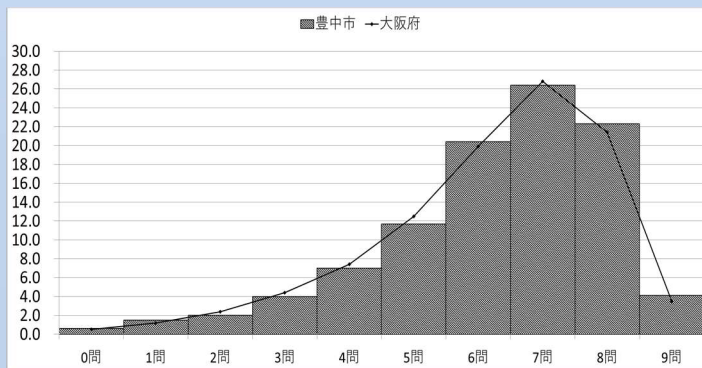
- どの分類においても大阪府の正答率を上回っています。
- 風の力の大きさとももの動き方の関係について、実験結果から考察する問題（問1（1））やモーターと乾電池をつないだ回路において、プロペラが逆に回転した理由を説明する問題（問1（2））において、正答率が高くなっています。
- 2つの乾電池を用いるとき、電流が大きくなる導線のつなぎ方を理解し、図で表現する問題（問1（4））や、温度計を使った気温の測り方を正しく理解する問題（問2（1））において、正答率が低くなっています。

第5学年・第6学年 わくわく問題（教科横断型問題）

第5学年 わくわく問題



第6学年 わくわく問題



分類	区分	平均正答率 (%)					
		第5学年			第6学年		
		大阪府	豊中市	対府	大阪府	豊中市	対府
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連付けて、正しくとらえる。	48.7	50.3	↗	56.0	57.1	↗
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連付けて、それをもとに論理的に考える。	62.9	66.7	↗	73.9	74.6	↗
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	75.7	77.9	↗	83.1	84.1	↗
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	63.1	66.1	↗	73.1	73.9	↗
	E 興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	78.3	75.7	↘	86.9	85.1	↘
問題を とらえる	文章から読み取る	57.9	60.3	↗	66.5	67.3	↗
	会話から読み取る	62.9	64.6	↗	73.9	74.1	↗
	図や表から読み取る	57.7	60.3	↗	66.8	67.7	↗
伝える	資料の情報を整理して伝える	61.1	63.3	↗	68.9	69.7	↗
	自身で考えたことを伝える	67.0	68.3	↗	76.3	76.5	↗
	理由や根拠を明確にして伝える	52.6	56.2	↗	65.0	66.0	↗
問題形式	選択	43.7	44.7	↗	49.3	49.9	↗
	図表	63.0	66.8	↗	73.8	74.4	↗
	記述	64.9	66.9	↗	74.8	75.4	↗

- わくわく問題は、第5学年と第6学年に同一問題で実施されました。
- どの分類においても、第6学年の正答率は、第5学年の正答率と比較して上回っています。
- 第5学年・第6学年ともに
 - ・ほぼ全ての分類において、大阪府の正答率を上回っていますが、「興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える」観点についてのみ、大阪府の正答率を下回っています。
 - ・複数の資料の中から記事の内容に合うものを選ぶ問題（問1（1））やリーフレットの内容をふまえ、学年のみんなに呼びかける記事を書く問題（問1（3））において、正答率が高くなっています。
 - ・複数の資料に関連付けて適切な内容を選択する問題（問2（2））や複数の意見をその伝えたい内容ごとに分類する問題（問3（1））において、正答率が低くなっています。



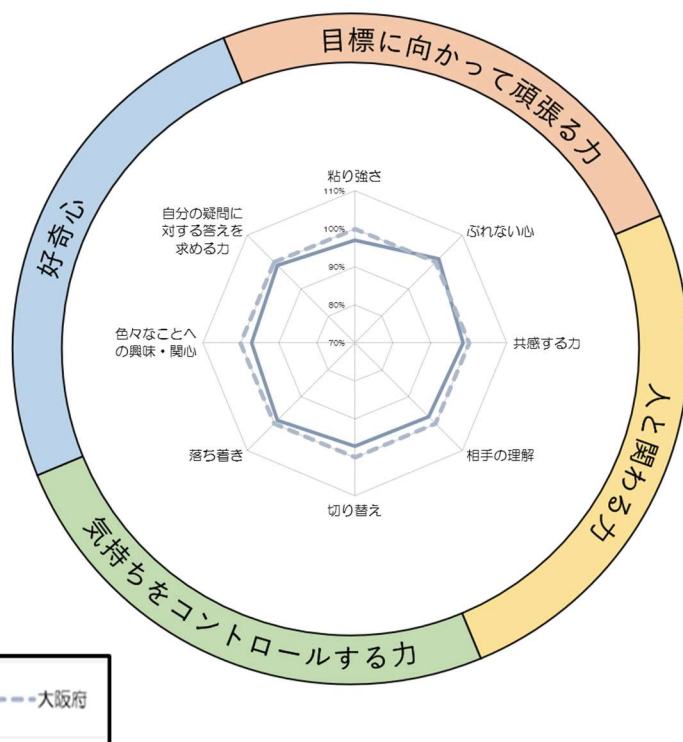
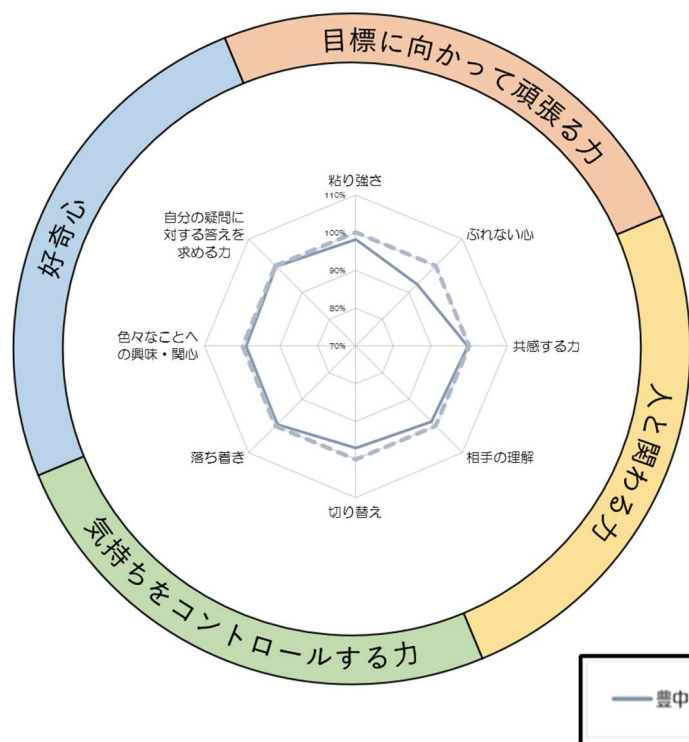
児童アンケート結果から

児童アンケート結果では、目標に向かって頑張る力・人と関わる力・気持ちをコントロールする力の「未来に向かう力」と「好奇心」の項目平均（当てはまる・どちらかといえば当てはまるの合計）から、大阪府を基準とした豊中市の特徴をまとめています。



5年生

6年生



— 豊中市 — 大阪府

- 第5学年では、人と関わる力の「共感する力」や好奇心の「自分の疑問に対する答えを求める力」が、他の項目と比べて、やや高い結果となっています。一方で、目標に向かって頑張る力の「ぶれない心」は、他の項目と比べて低い結果となっています。
- 第6学年では、目標に向かって頑張る力の「ぶれない心」が、他の項目と比べて、やや高い結果となっています。一方で、好奇心の「色々なことへの興味・関心」は、他の項目と比べて、やや低い結果となっています。
- 第5学年・第6学年ともに、気持ちをコントロールする力の「切り替え」が、他の項目と比べて、やや低い結果となっています。

※このテスト及びアンケート結果は、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

